

2020年11月11日(水)
新・国際芸術祭(仮称)組織委員会事務局
(愛知県県民文化局文化部
文化芸術課トリエンナーレ推進室内)
代表:052-971-3111

新・国際芸術祭(仮称)の芸術監督が決定しました

- 新・国際芸術祭(仮称)組織委員会では、このたび、2022年に開催する新・国際芸術祭(仮称)の芸術監督を、^{かたおか まみ}片岡真実氏(森美術館館長、国際美術館会議(C I M A M)会長)に決定しました。
- 片岡氏による芸術監督就任会見を11月17日(火)13時30分から、愛知芸術文化センター12階 アートスペースAで行います。

片岡 真実(かたおか まみ)氏

1965年生まれ 愛知県出身(55歳)

(森美術館館長、国際美術館会議(C I M A M)会長)



(c) Ito Akinori

◆略歴

愛知県名古屋市生まれ。愛知教育大学美術科卒。

ニッセイ基礎研究所都市開発部、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館。2020年より同館館長。

2007~2009年はヘイワード・ギャラリー(ロンドン)にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ(2012年)共同芸術監督、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督(2018年)。

2014年から国際美術館会議(C I M A M)理事を務め、2020年より会長(~2022年)。文化庁アートプラットフォーム事業・日本現代アート委員会座長、第7期東京芸術文化評議会評議員、美術評論家連盟(A I C A)会員。京都芸術大学大学院客員教授、東京藝術大学客員教授。

その他、日本及びアジアの現代アートを中心に執筆・講演等多数。

◆芸術監督選任理由

- 国際的なキュレーター、ディレクターとして豊富な経験と実績を有しており、国際水準の芸術祭が期待できること。
- 国内外で美術関係を中心とした豊富なネットワークを有しており、コロナ禍においても国内を拠点としつつ、2022年に向けて国際芸術祭の開催準備ができること。
- 館長などの重責を担っており、適切かつ柔軟な組織運営を行うことができること。
- 愛知県出身で、地域の状況を把握しており、地域特性を活かした「あいち」の魅力向上・発信が期待できること。
- 初めての女性監督であり、新たな視点による芸術祭が期待できること。

※新・国際芸術祭（仮称）組織委員会のアドバイザー会議から示された芸術監督候補者の中から、組織委員会 大林剛郎会長（株式会社大林組 代表取締役会長）が片岡真実氏を選任。

片岡真実氏による芸術監督就任会見

- (1) 日 時：2020年11月17日（火）午後1時30分から
- (2) 場 所：愛知芸術文化センター 12階 アートスペースA
(名古屋市東区東桜一丁目13-2)
- (3) 出席者：大林剛郎会長、片岡真実芸術監督
- (4) 取材申込：準備の都合上、事前にお申込みください。

ア 申込方法

別紙「取材申込書」に必要事項を御記入の上、件名を「芸術監督就任会見申込」として、メールによりお申込みください。

【申込期限：11月13日（金）午後5時（厳守）】 ※電話連絡は不要です。

イ 申込先

新・国際芸術祭（仮称）組織委員会事務局

メールアドレス：triennale@pref.aichi.lg.jp

ウ 「芸術監督就任会見取材申込書」データのダウンロード用URL

<https://aichitriennale.jp/press/pressrelease.html>

エ 留意事項

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、最小限の人数で御来場ください。また、会場内では、マスク着用をお願いします。
- ・期限後の申込みはお受けできません。登録がない場合、入場をお断りします。

芸術監督決定に関する御質問は、組織委員会事務局で取りまとめの上、回答しますので、片岡真実氏本人、森美術館への直接のお問合せはお控えください。